

秋の部 優秀賞

はくちよう  
白鳥の くるひ ちかい  
来る日も近い

こども  
子供らは きたかぜ  
北風のなか

おちば  
落葉とかけっこ

盛岡市 西川 政勝

ふたたびもみたびもここに啄木たくぼくに

われ  
あいにし我は

なると うまれ  
鳴門の生まれ

徳島県徳島市 日下 正幸

みちのくに

さけさかのぼり まち

鮭 遡りくる街ありて

ぎぼし

擬宝珠にもたれ そを見てみたり

みい

東京都江東区 藤村 清彦

岩手山

いわてさん

かみ

神のごとくにたたずみぬ

きたかみがわ

北上川にかげをおとして

紫波郡紫波町 袈岩 フヂ

冷麺の器の中の

れいめん

うつわ

なか

くだもの

なし

果物が梨にかわりて

もりおか あき

盛岡の秋

盛岡市 小池沢 和志

あおぞら きれるはさみ た  
青空を切れる 鋏で裁つごとく

いわて やま  
岩手の山は

りん そび  
凜と聳える

盛岡市 中島 久光

いわきさんあお おもう  
岩木山仰ぎて想ふ

ふるさと  
ふるさとの

ゆき いだ がんしゅうざん  
雪を抱きし岩鷲山を

青森県青森市 鈴木 操

かわも さけ  
のぞきこむ川面キラキラ鮭のぼる

おかえりなさい

あき なかつがわ  
秋・中津川

盛岡市 林 晶子

わた き  
渡り来ぬ

しらとり  
白鳥たちは 優しけれ

ちかよるこ  
近寄る子らに 羽ばたき見せて

盛岡市 赤坂 昌信

もりおかの

たいふう いっか しろあと  
台風一過の城跡に

ぎんなん み いちめん お  
银杏の実の一面に落つ

盛岡市 鈴木 充

【講評】秋冷の岩手山や遼上の鮭、帰ってきた白鳥など、盛岡の秋の風景や風物を情的に詠った歌がほとんどであり、すがすがしさとともに、ほのぼのとした人情味を感じさせる歌が多かった。

平成二十六年十二月選

秋の部投稿数 二百五十七首

選者 八重嶋 勲 氏